

浮遊粒子状物質の測定結果(平成16年度)

浮遊粒子状物質は、大気中に浮遊する粒子状物質のうち粒径が $10\mu\text{m}$ ($1\mu\text{m}$ は、1,000分の 1mm)以下のもので、大気中に比較的長期間滞留し、その発生源としては物の燃焼、粉碎、土砂の巻き上げなどがありますが、近年では、ディーゼル自動車からの黒煙による影響が大きな原因と考えられます。

平成16年度に、浮遊粒子状物質について21測定局(自動車排出ガス測定局4局を含む。)で測定した結果は、下表のとおりであり、大垣赤坂測定局の $0.038\text{mg}/\text{m}^3$ が最も高く、羽島測定局の $0.018\text{mg}/\text{m}^3$ で最も低くなっています。

すべての測定局で環境基準を達成できました。

平成16年度浮遊粒子状物質測定結果

地域	測定局名	有効測定日数(日)	測定時間(時間)	年平均値(mg/m^3)	1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた時間数とその割合		日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		1時間値の最高値(mg/m^3)	日平均値の2%除外値(mg/m^3)	日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が2日以上連続したことの有無	長期的評価の適否	平成15年度	
					時間	%	日	%					年平均値(mg/m^3)	長期的評価の適否
岐阜	岐阜中央	363	8712	0.019	1	0.0	0	0.0	0.237	0.047	無	○	0.023	○
	岐阜南部	364	8719	0.024	1	0.0	0	0.0	0.214	0.054	無	○	0.027	○
	岐阜北部	361	8648	0.020	0	0.0	0	0.0	0.167	0.050	無	○	0.021	○
	各務原	362	8697	0.026	0	0.0	0	0.0	0.200	0.060	無	○	0.028	○

	羽島	362	8681	0.023	1	0.0	0	0.0	0.269	0.056	無	○	0.018	○
	平均	／	／	0.022	／	／	／	／	／	／	／	／	0.023	／
西濃	大垣中央	364	8706	0.026	0	0.0	0	0.0	0.188	0.057	無	○	0.027	○
	大垣南部	365	8726	0.023	2	0.0	0	0.0	0.238	0.056	無	○	0.023	○
	大垣西部	364	8727	0.024	2	0.0	0	0.0	0.254	0.056	無	○	0.026	○
	大垣赤坂	47	1173	0.038	0	0.0	0	0.0	0.151	0.063	無	－	0.038	○
	平均	／	／	0.028	／	／	／	／	／	／	／	／	0.029	／
中濃	美濃加茂	351	8465	0.019	0	0.0	0	0.0	0.157	0.052	無	○	0.022	○
東濃	土岐	331	7958	0.029	0	0.0	0	0.0	0.161	0.059	無	○	0.031	○
	瑞浪	350	8406	0.023	0	0.0	0	0.0	0.137	0.054	無	○	0.027	○
	笠原	362	8687	0.024	0	0.0	0	0.0	0.192	0.057	無	○	0.027	○
	中津川	363	8710	0.022	0	0.0	0	0.0	0.105	0.050	無	○	0.025	○
	中津川柳	363	8678	0.025	0	0.0	0	0.0	0.187	0.052	無	○	0.028	○

	平均	/	/	0.025	/	/	/	/	/	/	/	/	0.028	/
飛驒	高山	357	8547	0.019	0	0.0	0	0.0	0.110	0.043	無	○	0.020	○
	乗鞍	310	7523	0.012	7	0.1	0	0.0	0.246	0.055	無	非適用	/	/
	平均	/	/	0.016	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
県平均		/	/	0.023	/	/	/	/	/	/	/	/	0.026	/
岐阜 明德 自排		363	8721	0.026	0	0.0	0	0.0	0.122	0.055	無	○	0.030	○
大垣 自排		360	8629	0.032	1	0.0	0	0.0	0.235	0.069	無	○	0.038	×
可児 自排		357	8588	0.026	0	0.0	0	0.0	0.144	0.057	無	○	0.028	○
土岐 自排		365	8730	0.034	0	0.0	0	0.0	0.150	0.063	無	○	0.037	○

備考)

1 県地球環境課調べ

2 環境基準の長期的評価に適合しているとは、測定時間が年間 6,000 時間以上あり、日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日が2日以上連続せず、かつ、日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数が年間を通じて2%以下であることを示す。

3 「長期的評価の適否」欄の「-」は、年間の測定時間が 6,000 時間に満たないことを示す。

○過去 10 年間の経年変化

浮遊粒子状物質の年平均の経年変化

